

中海の護岸整備

昨年12月19日、大橋川の改修事業について、鳥取・島根両県知事が事業着手に合意し、昭和57年以来中断していた同事業が27年ぶりに再開される運びとなりました。

これに関連して、鳥取県側が同意条件としていた中海の護岸整備が、実施に移されることとなっております。

早期整備箇所として位置づけられている本市の「渡漁港」の整備に向けましては、今後、国土交通省において、平成22年度予算で中海護岸整備に係る事業費を確保され、調査・設計、用地取得などに着手されると伺っております。

2月10日の渡地区治水対策協議会では、新たに整備される渡漁港の規模や施設を配した計画図が示され、大方の了解が得られたところであります。

本市としましては、渡漁港の埋立てや雨水の排水施設整備に必要な調査費を、平成22年度予算に計上しているところであり、今後も、引き続き地元と協議を重ね、国土交通省や鳥取県と連携を図りながら、事業の実施に向けて取り組んでまいります。

一方、外江地区の内水排除対策の一環としまして、境港管理

組合では、今月中に、外江中央都市下水路の樋門に雨水排除ポンプを設置することとなっております。今後、高潮時における内水排除の作業が迅速に行えるものと期待しております。

夕日ヶ丘団地の市街化促進

夕日ヶ丘団地の分譲は、低価格で販売されている民有地との競合や景気の低迷により、平成20年度以降の販売実績はなく、境港市土地開発公社用地と市の保留地を合わせた販売予定区画数446区画のうち、まだ279区画が未分譲となっております。

このため、土地開発公社では、分譲による費用回収が進まず、借入金の利子負担を軽減するため、市は35億円の無利子貸付を実行しているところであります。

一方、昨年6月から導入しました定期借地制度につきまして、2月末現在で、10件の契約が成立し、現在、検討していただいている分譲地も多数あり、好評であります。

平成22年度は、夕日ヶ丘1丁目、2丁目、3丁目、4丁目の県営住宅北側の用地を52区画新規分譲することとしており、アパート等へのポスティングによるピーアールなども継続し、

さらに定期借地申し込みが増加するものと考えております。

また、環境改善を図るために土地開発公社が先行取得した事業所跡地につきましては、墓地を併設した公園として整備する計画について、地元自治会への説明会やパブリックコメントを実施し、概ね計画に同意が得られたものと考えております。

今後の年次計画としては、平成22年度に都市計画決定や全体測量、基本設計などを行い、平成23年度に実施設計と用地取得、24・25年度に公園工事、26年度以降に墓地区画の造成を考えております。

新規区画の分譲や公園墓地計画の推進などにより、夕日ヶ丘団地の一層の市街化の促進につなげてまいります。

公共下水道事業の推進

平成22年度の下水道工事は、平成21年度から引き続き、主に大正川から東側の境地区の整備を行い、水木しげるロードの整備にも着手いたします。これにより、平成22年度末の普及率は約52%を見込んでおります。

また、雨水の浸水対策として、平成21年度からの継続事業で相生町の旧渡船場から境小学校東側までの中町雨水幹線の整備を

行い、平成23年度の完了を予定しております。

現在、整備を行っております事業認可区域は、概ね平成23年度には完了することから、認可区域の拡大を申請しているところであります。

拡大区域としては、境港駅周辺を含む大正川の西側から米川までと、境高校の南側と西側の中野町、上道町や三軒屋町の一部と渡中継ポンプ場の、約106ヘクタールで、概ね平成23年度から28年度にかけて整備を計画したいと考えております。

今後も効率的に整備を行い、生活環境を改善し、公衆衛生の向上に努めてまいります。



水木しげるロードに設置される鬼太郎ファミリーが描かれた公共下水道の污水枡ふた（水木しげるの記念館で展示中）

市民一人ひとりを大切にする教育と福祉の充実



学校教育の充実

学校教育におきましては、「心豊かでたくましい子ども」、「夢や希望を持ち、よりよく生きようとする子ども」を、本市のめざす「子ども像」として掲げ、「確かな学力」とともに「豊かな人間性・社会性」、「健康・体力」を備え、将来にわたる「生きる力」を育むこととしております。

このため、教育環境の整備に努めるとともに、学校・家庭・地域による総合的な教育力の向上を図ってまいります。